



○「星は見ている」

1945年8月6日、広島の上空で炸裂した原爆の真下には8000人もの中学生在がいたそうです。中学生のわが子

を一瞬にして原爆で失った被ばく者遺族の悲しみを伝える手記集を読んだ、女優で朗読座を主宰する紺野美沙子さんが、手記集にある最後の一篇の朗読会を開かれたことが契機で出された絵本があります。それが『星は見ている』です。紺野美沙子さんは「平和を祈る少年の言葉、子を思う母の思いを知ってほしい」と朗読に込めた思いを語っておられます。

絵本の中で少年は、母親と屋根から夜空を見上げながら「どうして戦争なんか起こるのでしょうか」とつぶやきます。その少年は、翌朝建物疎開の作業のため出かけたまま帰りませんでした。

このたび、紺野美沙子さんのサイン入りの絵本を、松江市在住の原田美穂子さまから松江東高校に寄贈していただきました。原田さまはALSという難病と闘いながら、これからの若者の未来を憂い、なにかできないか考えられる中で今回寄贈くださいました。HPに原田さまからのメッセージを載せています。原田さまは手足が不自由で動かないため、すべて目で打つワープロで作成されています。つまり、目線を移動させることで文字を入力したり、カーソルを動かしたりして作成された、まさに魂のこもったメッセージです。

このメッセージを読みながら永井隆博士が浮かびました。『この子を残して』などの著書が有名な永井隆博士は、長崎で被爆。最愛の妻を亡くし、自らも被爆し重傷を負いながらも救護活動を続け、白血病に侵され寝たきりになっても世界中の人々に戦争の愚かさ、平和の尊さを訴え続けました。そして、母親を失い孤児となる二人の未来を案じながら、約6年後に亡くなりました。

永井隆博士は「如己愛人(によこあいじん)」のメッセージを通じて平和を全世界に訴え続けましたが、私もその直筆の書をステッカーにしたものを校長室の机に貼り、日々見つめています。

残念ながら世界では、ロシアによるウクライナとの戦争、ガザ地区でのイスラエルとハマスの戦争などが起きていて連日のように報道されています。この少年の言葉が届くことなく、戦争は世界で起こり続けています。ガザでの死者が1万人を超え、その4割は子どもたちだそうです。

己を愛するように人を愛せよという永井隆博士の言葉。まずは、自分の友達や家族、そして身近な人へそうした気持ちを向けるところから少しずつ平和は築かれていくのではないのでしょうか。松江東高校が掲げる「自立への道程」に添えた「小さな気遣い」に込めた思いは、如己愛人に込められた思いに通じています。人への思いやりの積み重ねが大事です。

絵本『星は見ている』は図書館で借りられます。YouTubeで紺野美沙子さんの朗読を視聴することもできます【QRコード参照】。ぜひ平和を考えるきっかけにしてもらいたいと思います。

